

KUNIYOSHI

The Spellbinding Ukiyo-e Works of an Eccentric Artist

歌人 奇才絵師の魔力 国芳展

山口放送開局70周年記念

18歳以下
無料

【開館時間】9:00~17:00(入場は16:30まで)

【休館日】月曜日 ※ただし10月6日、13日、11月3日、24日は開館

【観覧料】一般1,600(1,400)円/シニア・学生 1,400(1,200)円

◎コレクション展セット券(当日券のみ)一般1,700円/学生1,500円

※シニアは70歳以上の方、()内は前売り、オンラインチケットおよび20名以上の団体料金。※高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍の方等は無料。 ※障害者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。 ※前売り券は、ローソンまたはミニストップ店内のLoppi(Lコード:62097)、セブンチケット(セブンコード:111-936)でお求めください。オンラインチケットの購入については、当館ウェブサイトをご覧ください。

【主催】山口県立美術館、読売新聞社、KRY山口放送

【特別協賛】西京銀行

山口県立美術館 <https://y-pam.jp>

◎会期中、大幅な展示替えを行います。前期:9月25日(木)~10月26日(日)/後期:10月28日(火)~11月24日(月・休)

暗闇からハミサアツ



《相馬の古内裏》弘化2〜3年(1845〜46)頃[通期展示]

《通俗水滸伝豪傑百八人之吾人 浪裡白跳張順》
文政11〜12年(1828〜29)頃[通期展示]



「水滸伝」に登場する張順は、怪力で泳ぎの達人。敵地へ侵入するため、黒い格子状の水門を力づくで破ります。筋骨隆々の肉体、白い肌に浮かび上がる彫物！このあまりのカッコよさに江戸っ子たちの間で彫物が流行したといわれています。後に「武者絵の国芳」と評されるまでになりました。



《ぎん魚づし ぼんぼん》
天保13年(1842)頃[通期展示]

舞台は古く荒れ果てた屋敷。ここに住まう淹夜刃姫が、妖術で巨大な骸骨を呼び出したところ。御簾が落ちる大きな音が聞こえてきそう。ワイドスクリーンを効かせた構図に国芳のセンスが光ります。

国芳に学ぶ 映え“ショット”



12



11



《東都富士見三十六景 新大はし橋下の眺望》
天保14年(1843)頃[後期展示]



10

これぞ 国芳展の 決定版！



9



《吉野山合戦》嘉永4年(1851)頃
[後期展示]

お馴染み、よく見ると…え



《みかけハコハるがとんだい人だ》
弘化4年(1847)頃[通期展示]

《流行猫の変化》
天保12〜13年(1841〜42)頃[通期展示]



猫の頭に髪を重ねるおもちゃ。子供たちが切り抜いて遊びました。大の猫好きであった国芳には、懐に子猫を抱きながら絵筆をとっていたというエピソードも。本展ではたくさんの猫が登場します。

必見、新発見☆カツラ合わせ

水門を破って ドゴオオオオ



5

みんなでまやっ まやっ

仲良く手(ヒレ)をつなぐ金魚たち。おやおや、オタマジャクシもいます。みんなで歌を唄いながら、歩く姿が楽しそう。作品名の「ぼんぼん」とは、お盆の夜に子供たちが町を練り歩く遊びのこと。

誰もが楽しめる最大級の展覧会

江戸時代末期に活躍した歌川国芳(一七九七―一八六二)は、それまでの浮世絵の歴史を塗りかえる斬新な作品を生み出しました。人気小説「水滸伝」をテーマとした武者絵の大ヒットをきっかけに、浮世絵師として頭角を現し、美人画、役者絵など幅広いジャンルで存在感を示していきます。とりわけ戯画では、擬人化された動物たちの明るく笑いに満ちた世界をつくりあげ、時にはそこに幕府に対する風刺のメッセージも含ませて、圧倒的な人気を誇りました。



8



《坂田怪童丸》天保7年(1836)頃[通期展示]



《山海愛度図会 七 ういたい 越中滑川大蛸》
嘉永5年(1852) [前期展示]

粋★ハツラツ 国芳美人



《朝比奈小人嶋遊》弘化4年(1847) [通期展示]

歌舞伎などで道化役として親しまれた朝比奈には、海を渡って異人の島を旅する話があります。ここは小人島。国芳の手にかければホラ！このとおり。大小の対比を強調するため、朝比奈を小人の30倍も大きく描いています。

でか！



11

※作品はすべて個人蔵



KUNIYOSHI

展覧会イベント

うた がわ くに よし 歌川国芳 (1797-1861)

江戸で染物屋の息子として生まれた国芳は、12歳で描いた鍾馗図が人気絵師・歌川豊国の目にとまり、入門。10代でデビューしますが、しばらく不遇の時代を過ごし、30代初めに手がけた「通俗水滸伝豪傑百八人之一個」シリーズで一躍人気絵師となります。江戸時代末期、浮世絵界では葛飾北斎が巨匠として君臨し、国芳と同世代の歌川国貞と広重が、それぞれ役者絵と風景画のジャンルを中心に絶大な支持を得ていました。数多の浮世絵師たちが群雄割拠した時代に、国芳はポップな個性を発揮。多くの門人を育て、その系譜は近代日本画へとつながっていきました。

講演会①

「国芳の個性とその魅力」

9月27日(土) 14:00~15:30

明快な分析で浮世絵研究をリードし続ける浅野秀剛氏に、国芳の魅力についてお話しいただきます。

[講師] 浅野秀剛

(あべのハルカス美術館館長、大和文華館館長)

[会場] 山口県立山口図書館

レクチャールーム

[定員] 150名(当日先着順) / 聴講無料

講演会②

「北斎・広重と国芳の奇想」

11月1日(土) 14:00~15:30

江戸絵画についてのユニークな展覧会を数多く企画されてきた安村敏信氏に、奇想をテーマにお話しいただきます。

[講師] 安村敏信

(静嘉堂文庫美術館館長、北斎館館長)

[会場] 山口県立山口図書館

レクチャールーム

[定員] 150名(当日先着順) / 聴講無料

学芸員によるギャラリートーク

10月4日(土)、10月11日(土)、10月18日(土)、10月25日(土)
14:00~(45分程度、事前申込不要)



13

山口県立美術館オリジナル
国芳展 LINE 無料スタンプ登場!

友だち追加でプレゼント
(先着 500 名様)



※デザインは変更となる場合があります。

音声ガイド

人気声優二人の競演

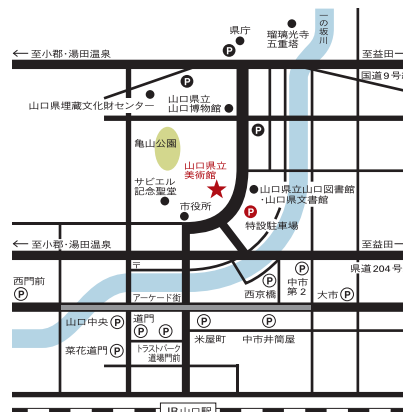
数々の人気アニメで活躍する声優の花江夏樹さん(「鬼滅の刃」竈門炭治郎役ほか)、釘宮理恵さん(「銀魂」神楽役ほか)のナレーションでご案内します。国芳がこよなく愛した「猫」も登場。国芳にまつわるエピソードも織り交ぜながら、作品の見どころを楽しく紹介します。



花江夏樹さん
(声優)



釘宮理恵さん
(声優)



◎交通案内

JR 新山口駅から山口線に乗り換え山口駅下車、徒歩約15分
JR 新山口駅から防長バス山口行きで約30分
JR 防府駅からJRバス山口行きで約1時間
[山陽自動車道] 防府東ICから車で約25分
[中国自動車道(広島方面から)] 山口ICから車で約15分
[中国自動車道(九州方面から)] 小郡ICから車で約25分

※駐車場は美術館周辺の各駐車場をご利用ください。

① 特設駐車場は無料。(200 台)

② は無料。③ は最初の1時間のみ無料となります。
(1時間無料券を配布しますので駐車券をお持ちください)
県庁駐車場は土・日曜、祝日のみ開放となります。

山口県立美術館

〒753-0089 山口県山口市亀山町3-1 tel.083-925-7788

<https://y-pam.jp>